

平成30年度 薬物乱用防止啓発ポスター一講評

審査員代表 松江市立宍道中学校

教諭 金築 亨

社会環境が複雑化する中で、日常生活も生活時間帯や趣味嗜好の種類も以前と比べより多様に変化してきています。インターネットやSNSを日常的に扱う時代となり、様々な情報や通信販売など、人の興味・関心を引きつけられる魅力的な言葉によって様々な品々が売り買いされる時代となっています。危険ドラッグ事犯については、検挙者が減少しているとはいえ、少年の覚醒剤・大麻事犯は増加の傾向にあり、特に若年層を取り巻く環境において予断を許さない状況となっています。このような中で、薬物乱用防止を生徒の目や心を通して考え、啓発ポスターを作成することは大変重要な意味をもっていると考えられます。

今年度は県内の中学校・高等学校から126点の作品が集まりました。作品数は少なくなってきましたが、子どもたちの薬物乱用に対する切実な思いや将来自分たちが生きていく社会への警鐘や願いと受け止められる作品が多く見られました。

高等学校からは13点の応募がありました。色合いや画面構成など、基礎基本を大切にしながらも、細かな部分をていねいに表したりコラージュなどの技法を併用したりしながら表現された作品がありました。中学校からは113点の応募がありました。デザインのポスター制作として授業で扱われた作品や、夏休みの課題、部活動でじっくり時間をかけて作られた作品などがありました。薬物の入ったカプセルやそれを果物に置き換えてみたり、遠近法や立体感を活かしながら動きのある画面構成を工夫したりするなど、テーマを通して見る人に訴えかける表し方を工夫している作品が多かったと思います。一段と表現力が高まってきていると感じ、嬉しく思います。

暗く不気味な感じを受ける色合いの作品以外にも、明るさや白を混色した淡く優しいパステルカラーを意識した色使いの作品も目立ちました。画面に表現された標語も、レタリングをていねいに行い、背景や主体となるモチーフの色と対比させて効果的な表現がなされており、見る側にとっても印象深い作品が多く、感心しました。

選考にあたって考慮したことは、薬物乱用防止の目的を理解し、視覚伝達というポスターの機能性を活かして描かれた作品であり、学校の授業や部活動で習った技法を駆使して形や色彩構成を独創的かつ効果的に表した作品であるか。また、標語の意味がわかりやすくメッセージ性が高く、レタリングをていねいに行き見やすい文字を構成している作品であるか等の観点を明確にして審査したことです。

今回県知事賞を受賞した作品は、自らが幸せに生きていくはずの道が、薬物を使用することによって、音を立てて崩れていくというメッセージを、色相のグラデーションなどの基本的な技能を大切にしながら、全体をはっきりとした色調でデザインしました。未来につながる道や幸せの象徴となる鳩を、赤や黄など警告を感じさせる色で表現し、危機感迫る印象を与えています。また、レタリングもていねいに描かれ、字の色を変えることによって伝えたいことがわかりやすく伝わる表現になっています。その他入賞した作品につきましても、時間をかけてていねいに描かれており、完成度の高い作品に仕上がっていました。指導にあたられた先生方の日々のご苦勞やご努力、およびその指導の下で熱心に制作された生徒の皆さんの意欲的な活動に敬意を表します。

来年度の実施におきましても、たくさんの学校からの応募を期待しますとともに、創造する喜びを生徒がしっかり感じるような美術教育が発展しますこと、また、薬物乱用に対する正しい知識が本コンクールを通じてより普及しますことを祈念し、講評といたします。